



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月13日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長

(氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2024年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	22,248	5.3	831		763	960.1	638	
2023年3月期第3四半期	21,135	22.4	388		72	94.3	355	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 656百万円 (%) 2023年3月期第3四半期 346百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	290.16	
2023年3月期第3四半期	166.36	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	22,578	6,492	28.8
2023年3月期	20,051	4,621	23.0

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 6,492百万円 2023年3月期 4,621百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00			
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,133	2.0	916		783	215.7	385		166.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	2,311,434 株	2023年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,087 株	2023年3月期	1,806 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	2,199,218 株	2023年3月期3Q	2,137,732 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、個人消費をはじめ経済活動の正常化が進んだ一方、不安定な国際情勢のなかで、円安の進行、物価の上昇等、引き続き景気の先行きが不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましても、新型コロナウイルス感染症への警戒感が薄らぎ、客足や売上は回復傾向にあるものの、物価上昇に対する消費者の生活防衛意識は依然強く、原材料価格やエネルギーコスト等の高騰、人材不足等の状況のなか、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持し、さらなる品質向上のため、日々努力を続けております。消費者の意識・行動がコロナ禍を経て大きく変化しているなか、多くのお客様に選んでいただける店づくりのため、商品開発や改装に注力し、加えて、店内業務の見直しやDXにより料理提供時間の短縮を図る等、お客様満足度向上に向けた取り組みを進めてまいりました。

当期、当社グループは創業60周年を迎えました。上記の取り組みを含め、当社グループが創業以来築き上げてきたブランド価値をお客様に改めて感じていただきたい、そして、従来の価値を守るだけでなく、新たな時代に対応し、より魅力的なサービスを提供してまいりたい、そのような思いをこめ、「安楽亭」ロゴマークを昨年11月にリニューアルいたしました。親しみ・温かみを保ちつつ、さらに魅力的な業態に進化していく期待感を表現するキーワードとして、「妬けちゃう焼肉」のフレーズも合わせて発表しております。今後新たなロゴマーク、キャッチフレーズを活用したブランドコミュニケーションを広く展開していく計画です。

店舗の展開においては、引き続きグループ内での業態の最適化・活性化を進めており、当四半期において、焼肉店からステーキ店への業態転換を2店舗、焼肉店の業態変更（安楽亭・七輪房⇒花炎亭）を2店舗実施しました。また、採算が悪化していた店舗を中心に、当四半期においてグループ計4店舗を閉店いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高222億48百万円（対前年同期比5.3%増）、営業利益8億31百万円（前年同期は営業損失3億88百万円）、経常利益7億63百万円（対前年同期比960.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益6億38百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失3億55百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「安楽亭業態」、「七輪房業態」、「アークミール」及び「その他業態」から、「安楽亭・七輪房業態」、「アークミール業態」及び「その他業態」に変更し、共通費の集計及び配賦方法を変更しております。当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、セグメント変更後の区分に基づいております。

① 安楽亭・七輪房業態

安楽亭・七輪房業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は169店舗であります。内訳は直営116店舗、暖簾16店舗、FC37店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「安楽亭」にて、韓国の「ヤンニョム」と中国の「ホアジャオ」を使用した「麻辣ダレ」で焼肉の新たな美味しさを提案する「麻辣焼肉フェア」、焼肉以外のメニューバリエーション（冷麺、石焼ビビンバ等）を活かした「焼かないランチ」の販売等、新たなメニューや企画を引き続き積極的に展開しております。また、昨年12月にリニューアルオープンした安楽亭歌舞伎町店では、従来のメニューに加え「韓国屋台（ポチャ）グルメ」を提供し、アルコールバーも設置する等、都心の立地を活かし、洗練された新たな魅力の店づくりにも取り組んでおります。

「七輪房」では、「バリうま！九州グルメフェア」として九州産の食材や九州名物メニューをお楽しみいただける企画を開催した他、和牛や上タンを盛り合わせた「年末年始限定プレミアム大皿」を販売する等して、多様で上質な肉の魅力アピールいたしました。

以上の結果、安楽亭・七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は90億40百万円（対前年同期比2.5%減）となり、セグメント利益（営業利益）は1億35百万円（前年同期はセグメント損失2億38百万円）となりました。

② アークミール業態

アークミール業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は132店舗であります。内訳は直営130店舗、FC2店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」では「ステーキ屋のタラバ蟹グリルフェア」や「冬のSweetタイムフェア」を開催、「しゃぶしゃぶどん亭」ではしゃぶしゃぶの新たなだしとして「豆乳だし」を導入、「フォルクス」では「ジンジャーテリヤキハンバーグ」やカットステーキといった普段使いにも最適なメニューラインナップを新たに導入する等、各業態において積極的にメニューの多様化及び来店促進の施策を展開してまいりました。

以上の結果、アークミール業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は128億33百万円（対前年同期比11.2%増）となり、セグメント利益（営業利益）は10億13百万円（対前年同期比416.5%増）となりました。

③ その他業態

その他業態の当第3四半期連結累計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営7店舗、FC2店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「上海菜館（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は3億74百万円（対前年同期比16.6%増）となり、セグメント損失（営業損失）は18百万円（前年同期はセグメント損失29百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ25億26百万円増加し、225億78百万円となりました。これは、現金及び預金の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ6億55百万円増加し、160億85百万円となりました。これは、長期借入金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ18億70百万円増加し、64億92百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、公募増資及び第三者割当増資による資本金及び資本剰余金の増加等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2023年8月10日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更しております。詳しくは、2024年2月13日に公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,597,664	5,260,440
売掛金	1,310,690	1,376,456
商品及び製品	622,297	874,597
仕掛品	5,330	2,712
原材料及び貯蔵品	1,096,972	713,562
前払費用	456,027	337,617
未収消費税等	—	3,438
その他	115,636	61,641
貸倒引当金	△4,917	△3,730
流動資産合計	6,199,701	8,626,738
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,153,797	3,160,719
機械装置及び運搬具（純額）	58,982	46,233
工具、器具及び備品（純額）	379,839	483,114
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産（純額）	80,138	94,210
建設仮勘定	23,154	128,312
有形固定資産合計	9,776,855	9,993,533
無形固定資産		
のれん	12,133	3,033
その他	533,838	536,051
無形固定資産合計	545,972	539,084
投資その他の資産		
投資有価証券	150,809	168,734
長期貸付金	1,885	3,802
長期前払費用	85,575	71,863
繰延税金資産	165,834	127,877
敷金及び保証金	3,123,744	3,043,324
その他	27,998	27,556
貸倒引当金	△26,721	△24,416
投資その他の資産合計	3,529,126	3,418,741
固定資産合計	13,851,954	13,951,359
資産合計	20,051,656	22,578,098

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	940,679	1,347,099
短期借入金	3,622,200	3,704,248
1年内返済予定の長期借入金	1,492,056	1,351,789
リース債務	36,693	33,919
割賦未払金	301,804	278,565
未払金	321,709	361,432
設備関係未払金	67,650	87,240
未払費用	823,397	849,863
未払法人税等	100,338	192,861
未払消費税等	447,450	298,233
賞与引当金	156,200	75,672
資産除去債務	7,782	300
その他	422,138	472,068
流動負債合計	8,740,100	9,053,294
固定負債		
長期借入金	4,448,644	5,053,850
リース債務	115,089	124,942
長期割賦未払金	650,943	562,566
繰延税金負債	185,180	108,903
役員退職慰労引当金	142,370	152,141
退職給付に係る負債	441,669	432,890
資産除去債務	351,974	349,405
その他	354,374	247,933
固定負債合計	6,690,246	7,032,632
負債合計	15,430,346	16,085,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,790,461
資本剰余金	2,472,098	3,080,174
利益剰余金	△1,052,073	△413,949
自己株式	△10,349	△12,353
株主資本合計	4,592,061	6,444,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,815	35,988
為替換算調整勘定	11,434	14,029
退職給付に係る調整累計額	△2,002	△2,179
その他の包括利益累計額合計	29,248	47,838
純資産合計	4,621,309	6,492,170
負債純資産合計	20,051,656	22,578,098

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	21,135,083	22,248,336
売上原価	8,012,880	8,462,410
売上総利益	13,122,203	13,785,926
販売費及び一般管理費	13,510,816	12,954,443
営業利益又は営業損失(△)	△388,612	831,482
営業外収益		
受取利息	2,399	1,289
受取配当金	2,783	2,960
受取地代家賃	35,234	35,426
助成金収入	505,821	—
その他	17,513	34,531
営業外収益合計	563,751	74,207
営業外費用		
支払利息	96,806	94,054
支払手数料	1,026	37,932
賃貸収入原価	4,824	4,823
その他	457	5,357
営業外費用合計	103,115	142,167
経常利益	72,023	763,523
特別利益		
固定資産売却益	327	2,358
受取保険金	—	2,597
受取補償金	—	100,000
特別利益合計	327	104,955
特別損失		
固定資産除却損	5,851	6,373
減損損失	193,560	54,102
賃貸借契約解約損	96,934	23,625
特別損失合計	296,345	84,101
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△223,994	784,377
法人税、住民税及び事業税	61,939	186,238
法人税等調整額	69,690	△39,983
法人税等合計	131,630	146,254
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△355,625	638,123
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△355,625	638,123

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△355,625	638,123
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,299	16,172
為替換算調整勘定	4,063	2,594
退職給付に係る調整額	△1,025	△176
その他の包括利益合計	9,337	18,590
四半期包括利益	△346,287	656,713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△346,287	656,713

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月21日付で、有償一般募集による増資の払込みを受けました。また、2023年10月17日付で、有償第三者割当による増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が608,075千円、資本準備金が608,075千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,790,461千円、資本剰余金が3,080,174千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収益	9,274,627	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
外部顧客への 売上高	9,274,627	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,274,627	11,539,636	320,819	21,135,083	21,135,083	—	21,135,083
セグメント利益 又は損失(△)	△238,020	196,198	△29,151	△70,973	△70,973	△317,639	△388,612

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭・七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては53,373千円であります。

「アークミール」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては131,233千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては8,953千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収益	9,040,578	12,833,720	374,037	22,248,336	22,248,336	—	22,248,336
外部顧客への 売上高	9,040,578	12,833,720	374,037	22,483,366	22,248,336	—	22,248,336
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,040,578	12,833,720	374,037	22,248,336	22,248,336	—	22,248,336
セグメント利益 又は損失(△)	135,448	1,013,424	△18,979	1,129,893	1,129,893	△298,410	831,482

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループの経営管理及び事業実態に合わせた損益管理を行うため、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「安楽亭業態」「七輪房業態」「アークミール」「その他業態」から、「安楽亭・七輪房業態」「アークミール業態」「その他業態」に変更し、共通費の集計及び配賦方法を変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭・七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては10,865千円であります。

「アークミール業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては43,236千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。